自己評価および外部評価結果（Aユニット）

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を掲示している。よりよいサービスができるよう実践している。	≪経営・介護・行動理念≫に基づき、利用者本人の生活習慣やリズムを尊重し、朝食時間や就寝時間など限定せず、本人の意思を第一に支援を行っている。また、毎月、各事業所の管理者等が集まり、業務報告を利用して、理念に沿って実践できているか、確認している。新人職員には、本社で新人研修を行い、理念を周知させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや行事に参加し、町内の方々と交流している。利用者さんと回覧板を持っていくこともある。	年一回、町内のお祭りに参加し、屋台のお手伝いや、うらじゃ踊りを披露している。また、地区の総会や公民館のお祭りに参加したり、隣接するガソリンスタンド等と密に連携を図ったり、中学生の職場体験を受け入れたりしながら、地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々は認知症を理解して下さっているので通常と変わらない対応をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の皆様のご両親や配偶者の高齢化に伴い、会議の時には相談や意見交換が活発化し、いい話し合いができている。	3ヵ月に1回、町内会長や民生委員、老人クラブ、公民館館長、家族など、多彩な顔ぶれで実施している。お互いざっくばらんに意見交換できる雰囲気であり、家族会も同時に行っている。家族には毎回、案内を出しており、参加できない家族には議事録で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとも連絡をとり、協力関係が築けるように努力している。	市町村への連絡は本社が行っており、本社を通じて市町村と連携を図っている。事業所で行うことは少ない。日常的に地域包括の方から、利用者の紹介や勉強会、講習会等の情報提供がある。研修等の参加は、職員の自主性に任せている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外は車が通るので安全面を優先し、ドアは施錠している。ケアの中では拘束はない。	身体拘束マニュアルの下、家族に同意を得てから拘束する事はあるが、現在は行っていない。ケース会議の中で拘束について話し合っている。また、年一回、内部研修（勉強会）を行い、帰宅願望等の解決に向けて、職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会、会議の資料、会社からの配布物もあり、参考にしている。言葉遣いにも注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は制度を利用される利用者がおられたが、Aユニットは現在活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に詳しくお話をお聞きすることでご家族に安心していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報交換ノートを面会の時に見ていただく。急ぎではないが例として持参していただいたセーターをとても気に入られていますというような報告をしている。	月１回、星の家きらり便りと、利用者の状況を記した手紙を同封して送付したり、面会や電話等で意見や要望を聞いている。また、家族会を設置し、年１回、運営推進会議後、食事会を開催している。家族同士の意見交換の場となり、繋がりが太くなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や業務報告書を活用している。	職員は月１回、業務報告書を提出しており、事業所内部で定めた目標に対して、取り組んだことや悩んでいること、相談したい事等、要望や意見を記載し、施設長や管理者、本社に伝えている。記載された内容を把握し、職員１人ひとりへ返答したり、改善に繋げたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は利用者と関わったり、職員の意見も聞き入れてくれている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で4ヶ月前より外部講師を招き、1ヶ月に1度、研修会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所との交流や他のグループホームとソフトボール大会などで、同業者と関わっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から訴えや不満を記録し、職員全員に伝え、解決方法を探すことで信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケ―ションを大切にし、よりよいケアができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が困っていた事などを把握し、情報交換ノートに状況、説明など分かりやすくお伝えする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割や楽しみにを持ってもらい、充実した生活を送って頂けるように支援していきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の思いを大切に考えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や地域の方との交流もしていただけるように支援している。	友人や近所の方が面会に来たり、電話で話をしたりしている。お正月には、利用者から家族へ、本社を通じて送付している。家族も協力的であり、一緒に外食に出かけたり、家族写真を部屋に貼ったりしながら、繋がりを深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しが上手く進まない時は職員が間に入り、話をすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了するとご家族も来所する理由がないので足が遠のいていくのが現状となっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	１人ひとりの生活パターンに合わせたケアをしている。	担当職員が中心となり、日常生活の何気ない会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。家に帰りたい、お墓参りに行きたいなど、本人の気持ちを家族に伝え、協力をお願いしている。また、家族が訪問した際にも、本人の様子や状況を聞き取りし、プランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族とコミュニケーションを取っているといろんなお話をして下さるため、把握しやすいところがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顔色やバイタルチェックで体調を把握し、その日の言動で変わられた所はないかどうか、注意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議を行い、問題点を意見交換し、モニタリングを行っている。	最初は3ヵ月、その後は6ヶ月毎に、ケアプランを見直し、状態が変化するごとにモニタリングを行っている。担当職員が原案を作成し、ケース会議にて意見交換し、ケアマネージャーが最終確認しており、利用者本人が心穏やかに過ごせることを第一に考え、家族や利用者の思いを重視しながら、プランを組み立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の体調、水分、食事の摂取量、不穏状況、気になる事など、1人ひとりを観察し、申し送りをし、安心して生活できる様に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々でご家族の報告。施設長へ会議の議題として意見交換している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑で野菜を作り、収穫したり、花を植えたり、玄関先でお茶を飲んだりはしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が定期的に往診、急患が出た時にはいつでも対応してくださる。訪問看護は週1度。	2週間に1回、協力医療機関の往診、週1回の訪問看護により支援している。医師はとても協力的であり、24時間いつでも連絡・相談ができる体制が出来ている。協力医療機関以外のかかりつけ医への受診は、各家族が受診対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	褥瘡の処置、水虫の薬の塗り方など、教えていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に様子を聞いている。ソーシャルワーカーを通じ、医師との情報交換にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについてはご家族、主治医、施設職員と話し合い、ご家族が最終的には決断され、決められた方向へ全員チームとなり支援する。	入所時に看取り支援について説明を行っている。利用者の状況に応じて職員で話し合い、主治医や家族を交えて方針を決定している。看取り支援後にはデスカンファレンスを行い、支援の振り返りや反省を行っている。内部・外部での勉強会を継続して行い、事業所内で発表の場を設けている。	看取り支援に積極的に取り組んでいるので、今後、ご家族からの意見や気づき等について、一定の時間をおいて伺うなどのさらなる取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、昼、夜、入浴等に分け、マニュアルを揃えている。消防署立会の緊急時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置、地域との協力体制の話も運営推進会議の時にしている。	年2回、昼夜想定した避難訓練を実施している。運営推進会議を活用し、消防署や地域住民参加のもと実施したこともある。町内会長や近隣の病院など災害時の応援を依頼している。	緊急連絡網は作成していますが、シュミレーションは行っていない様なので、きちんと最後まで繋がるか、何分かかるか等、実際に試してみると、新たな気づきが生まれてくるかもしれません。今後に期待します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときにはノックする、その他声かけに注意するなど、1人ひとりの性格に応じ、対応している。	出来るだけ方言は控え、利用者が不快にならない言葉かけを日頃から意識し、気になる場面があればその都度注意している。家族の了承を得て、星の家きらり便りに写真を使用している。居室のドアにガラス窓があるが、本人の希望を聞き、紙を貼るなどして、居室内が見えないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意志を尊重するように心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	塗り絵が好きな人、パズルが好きな人、体操嫌いな人など、いろんな方がおられるが、何をするにも無理強いせず、ご本人の意志を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には口出ししないようにしている。シーズンに合わせた服装をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お皿への盛り付け、酢合わせなど、出来る事をしていただいている。以前は包丁も持っていただいていたが、手を切って以来、中止している。	3食手作りで提供しており、利用者にも大根おろしや洗い物、味見など、出来る事を手伝ってもらっている。週1回、お寿司の日やパンの日を設けたり、誕生日には本人が食べたい物を提供する等、利用者も喜んでいる。また、2ヶ月に一回、食べたい物を聞き、利用者と一緒に買い物に出かけ、提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢になると食事の摂取量が減少するが、無理じいせず、ご家族にお話し、好きなものを召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけし、誘導している。なかには嫌がられる方もおられるので、無理じいしない。歯科にも往診してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自覚のない方もおられるので、時間をみて誘導、声かけをしている。すぐに出ず、何度もトイレ通いをされる方もおられる。フィットするパットを使用する。	利用者本人の身体機能を把握し、日中はトイレで排泄ができるよう支援を行い、夜間のみポータブルを利用している。また、夜間もオシメでの対応を出来るかぎり減らすように工夫している。パットなどはサンプルを活用しながら、本人にあったものを使用するように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を勧めている。トイレ使用時、温かいタオルで腰を温めたり、入浴にもお誘いする。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調も考慮し、支援している。入浴拒否される人、毎日でも入浴したい人、おひとりおひとりにその場面にあった声かけをし、納得していただく努力をしている。	週2～3回、入浴できるよう支援している。曜日などは決めず、本人の希望に応じて対応している。夜間浴の希望もあるが、今の所100%の対応は出来ていない。浴室や脱衣所は広く、空調設備もあり、温度差がないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事がすむと短時間臥床される方が多くなっている。浮腫の方もおられるので、日中も臥床。昼夜逆転の人もおられ、なるべく日中は離床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が増えたりすると、その効能と副作用を調べ、職員に申し送りをすることにしている。何かあればすぐに主治医に連絡をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたんだり、「お願い」をすると喜んで手伝って下さる。パズル、体操など楽しみにして下さる方も少なくない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーマーケットが近いのでよく出かける。ご家族が一緒に散歩に行ったり、ドライブに出掛けられたりされる方もおられるが、ほとんどは職員と一緒に出掛けられる。お祭りや行事を楽しんで下さっている。	定期的に利用者と一緒に献立から相談し、一緒に買い物に行き、話をしながら食材を選ぶ取り組みを実施している。日用品やおやつなどの買い物も、個別支援に努めている。お花見の際は、家族にも声をかけ、一緒にお弁当を楽しんでいる。外出行事は企画係が担当し、季節に合わせて実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で財布を持ち、買い物をされ、お金を支払える方は1名しかおられない。ご家族とも相談してお金を所持され、使う支援をしていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられる状態だが、最近は電話をかけたいどなたも言ってこられない。手紙も希望があれば便箋をお渡ししている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビは見やすい場所に設置。テレビの内容が話のきっかけになっている。四季を通じてリビングや洗面所前には絵や飾り付けをしている。	フロアは広く、窓際のソファコーナーやテーブルコーナーなど、利用者がゆったりと思い思いの場所で過ごせるようになっている。今月の歌や置物など季節感も工夫している。風船バレーやスゴロクなど、利用者皆が参加できるように実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの窓際にソファを置いている。２～３人の方が座られ、お話をされることも珍しくない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お一人おひとりの居室にはご家族が持ち込まれたものがある。特にお孫さんの写真はどの居室にも飾られていて、ご本人も「○○ちゃん」と思い出されている。	タンスや鏡台、仏壇、洋服かけなど、利用者の馴染みある物を持参している。壁に家族の写真を飾る等、家族との繋がりを大切にしている。家具の配置など、安全に移動ができるよう導線に配慮している。また、日頃から換気に力を入れ、気持ち良い空間で生活できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、車いすを使用されている方が6名おられる為、安全重視な環境作りをしている。ほとんど自走式なので、移動は声かけし、なるべく手を使用してもらっている。		